

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	世田谷区上祖師谷 1 - 1 6 - 1 7
園名	上祖師谷保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

こころときめく空間づくり～身近な素材の変化を楽しむ～

<テーマの設定理由>

園生活の中で園庭は欠かせない場であり自園では比較的広さがある。
子ども達が主体的に遊びを展開していくために、環境や遊具を整え、様々な素材を使って
試したり遊んだり継続する様子が増え、探求心につながってほしいと考えたため。

2. 活動スケジュール

9月頃…子ども達が遊びに使いやすいよう遊具の置き場を整備して、遊びに使って
身近な素材を知る

12月頃…身近な素材を知り、子ども達のやってみたいことを実践してみて考える

2月頃…実践してみて子ども達が実感したことを基に、さらにやってみたい遊びを
みつけ試してみる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

子ども達が自分達で遊具を取り出しやすいように遊具棚を設置した。また身近な素材
を遊びに取り入れられるように砂や水、草花、虫などに関する遊具を揃え整備した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・身近な素材の魅力を知ろう～実際に遊んでみよう～
- ・素材の性質を知り、自分達の遊びに取り入れよう
- ・気になったこと、試してみたいことを実際にやってみよう

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

* 砂山を作っていた子ども達だが、なかなか思うような高さにならなかった。

保育士も「お砂だけだと難しいねー」と話していたところ、半円の遊具を持ってきて2枚を組み合わせ、その中に砂を入れて高さを出す事を思いつき、「これなら壊れない」と言う友だちの様子を見て、一緒に遊んでいた子も同じような山を作っていく。その山ができた事で、元々作っていた砂山は高さという事よりも、側面に穴をあけたりして模様を表現する遊びに変化していき、最終的に半円のプレートをはずすと崩れず、砂山と一体化させ「お城ができた」と楽しんでいた。



* 数名の友だちと一緒に砂山を作っていた。出来上がるとそこに半円のプレート

を置き始め水を流そうという事になる。初めは1本だけだったが、どんどん増え放射状に水路ができあがった。水を山のてっぺんからバケツの水を流してみるのが勢いが良すぎて水路からあふれて水びたしになりうまく水路を流れない。

保育士が「せっかく作ったのにね」と言うと、「ここから流してみる?」「水、そーとやってみる?」などそれぞれが思いついた流し方をし始める。そのうちに水が流れる

量や勢いを見つけ、「流れた!」と満足そうな表情を浮かべた。ただ放射状の水路全部に水を流すことは、この日はできなかった。



* 水を流して遊ぼうということで、数名の子ども達が砂山を作り、半円のプレートを置き始める。プレートがある程度置いて水を流してみがうまく流れず、少し傾斜をつけながら山をぐるりと回るように置き、水を流す。バケツで流していたが「すぐ無くなっちゃう」と考え、保育士に「ホースから水流していい?」と子ども達から提案があり保育士は「やってみたら」と子ども達の様子を見守っている。水はどんどん流れていき子ども達は様子を見ている。

すると「もっと上から流そうよ」という子の発想で、一度プレートをはずしもっと大きな



砂山を作り、再度プレートの位置を考え水路をつけた。こうして完成した水路にホースで水を流すとうまく水が流れるところとうまく流れないところがあったが、自分達が思っていたようなものが出来上がったという満足感やみんなで作り上げたという達成感を感じられた。



5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

- ① 自分達で使える場所に遊具があったり、遊具の種類や量もある程度用意したりする事で、やってみたいと思うときにすぐ遊びにつながっていくと感じた
 - ・実際に遊んでいく中で、素材の面白さや不思議さに気づく事が増える。
 - ・一人でも複数人でもイメージを形にしていく際に、遊具の種類によっては量の確保も遊びが充実するためには必要であると感じた。
- ② 繰り返し遊んでいくことを積み重ねていきながら、子ども達が次に「こうしていきたい」や「どうなるんだろう」という気持ちが芽生え、遊びが広がり発展していくことを子どもの姿の変化から感じられた。

実際に思ったようになったり、ならなかったりする場面もあったが、様々な体験や体験から得た感情が次の遊びへつながっていく様子も感じられたので保育士もその気持ちに共感しながら子どもの主体性を大切にしていきたい。
- ③ 大きいクラスの子が遊んでいる様子を見て、小さいクラスの子が真似をしてみたり、同じクラスの子がやっているのを見たりして、同じ事をしてみようとするなど、保育園という異年齢や集団の特性や良さだと再確認した。日々の遊びの中で、子ども達一人ひとりが刺激を受けながら心身ともに成長していく様子を支えていきたい。